

# 文化都市形成のダイナミズム ブレスラウ ドレスデン ライプツィヒ から考える

Die kulturhistorische Genese  
von Kulturzentren am  
Beispiel Breslaus, Dresdens  
und Leipzigs

3月14日 金 13:30~17:00  
京都大学人文科学研究所第1セミナー室101

ブレスラウ、ドレスデン、ライプツィヒ — 有名とは言い難い都市ばかりだ。しかし文化都市がいかにかに形成されたかという視点でながめれば、これほど面白い組み合わせはないだろう。都市が形成されると同時に田舎が出現する。政治の中心が文化の中心にもなる。マジョリティとマイノリティが出現する。国に属さないグループもある。ザクセン、シレジアといった地域を舞台に、歴史を18世紀にさかのぼり文化と人の動きを検証する。

13:30-13:40

「なぜ今この3つの都市なのか」

小石かつら(京都大学白眉センター/人文科学研究所)

13:40-14:10

「田舎の誕生:18世紀ドイツの文化都市の形成とその余波をたどる」

吉田耕太郎(大阪大学文学研究科)

14:10-14:40

「ユダヤ人の様々な首都:19世紀におけるユダヤ文化の分散と収斂」

向井直己(京都大学人間環境学研究科)

コーヒーブレイク

15:00-16:00

「ドレスデン vs ライプツィヒ:2つの文化的中心をもつ国ザクセン」

マティアス・フォークト(ツィッタウ・ゲルリッツ大学、ザクセン文化基盤研究所)

16:00-17:00 討論

参加申し込み 京都大学学際融合教育研究推進センターHPより「WS支援事業企画一覧」をクリック  
<http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/>

参加費無料  
逐語通訳有